

プロジェクトの注目株は大連、南京 JATA会員各社の積極的な参画を

日本と中国が国交を回復して45周年に当たる2017年がスタートしました。中国国家観光局は今年、JATAが年間を通じて展開する「日中国交正常化45周年プロジェクト」に協力します。その機運醸成と交流拡大に向けて、5月に「アカシア祭り」が開催される大連と新たな観光スポットで脚光を浴びる南京の2都市への注目も高まっています。



27回目を迎えた昨年の「アカシア祭り」のオープニング



5月になると大連の町中に咲き誇るアカシア



ロシア風情街のエキゾチックな景観

大連「アカシア祭り」を起爆剤に
大連市の「アカシア祭り」は1989年からアカシアの花が満開となる5月下旬に開催されており、同市と友好関係にある世界各都市からも多くの人々が訪れています。
歴史的にも大連市と深いつながりを持つ日本からも、全国各地の自治体や観光関連団体、企業などが参加。昨年は「アカシア祭り」期間中に「中日観光大連ハイレベルフォーラム」も開催され、地域間の観光協力に関する市長円卓会議や観光振興・経済発展をテーマとする討論会なども実施されました。「45周年プロジェクト」が展開される今年、メンバー旅行会社による積極的な参画やツアー企



大連鉄道国際旅行社の車庫に展示されている旧満鉄の特急列車「あじあ号」

画を通じた送客の拡大なども見込まれています。
中国東北地方の遼東半島最南端に位置する大連は、「北海の真珠」という異名も持つ港湾都市で、坂道も多い街並みには洋館が立ち並び、エキゾチックな情緒に溢れています。旧満鉄時代の建築群に加えて、日露戦争の激戦地となつた旅順や203高地なども近く、かつて多くの日本人も住んでいた大連には、現在も多くの日本企業が進出しており、日本的な雰囲気も色濃く漂っています。きれいに整備された景勝地や美しい緑、清潔感、安心感なども、近代都市大連の魅力です。

南京―新観光スポット登場で脚光

南京市と中国国家観光局駐日本代表処は昨年12月、東京で「南京市



全国初の「国家AAAA級旅行景区」に指定された大連金石滩国家旅行度假区



日本が1917年に満蒙物産館として建築した旅順博物館

観光セミナー」を開催し、南京市が近年、新しい観光スポットとしてプロモーション活動を強化している「牛首山」と「大報恩寺」などを紹介しました。
江蘇省の省都である南京市では、今年10月、中山陵音楽台をメイン会場に



牛首山に建設された仏頂宮。内部は金色に輝いています

「百团万人博愛の旅 中日観光文化交流月間」も実施される計画です。その南京市にあつて、最も歴史的文化的資源が集中した区域の一つである大報恩寺遺跡公園にある大報恩寺は、中国で2番目という歴史を持つ仏教寺院で、南朝480寺の起源とされる古刹です。

2007年から開始された再建工事と考古発掘を通じて、2008年には宋代の財宝や文物などが大量に見つかり、その中でも、特に注目を集めたの

は、二重の鉄箱に入っていた宝塔でした。表面に「仏頂真骨」などの文字があつた宝塔には、本物の仏舎利(釈迦の遺骨)が納められており、「仏頂真骨」は釈迦の本物の頭骸骨だったことから、世界を驚かす大発見となりました。



「現代建築芸術による新景観」を目指す牛首山

この歴史的な重大発掘を顕彰・保存するため、南京市の牛首山で「仏頂骨舎利」を祀る仏頂宮の建設が進められ、第1期工事が完了した2015年10月には、釈迦牟尼仏頂骨舎利の奉安式が行われています。

自然景観が美しいだけでなく、仏教の名山でもある牛首山は、旧暦1月15日の元宵節から4月8日の浴仏節まで参拝や縁日で賑わうなど、様々な民俗行事が繰り広げられる場でもあります。「世界仏教文化の新遺産と現代建



歴史的文化的資源の集中する大報恩寺遺跡公園



辛亥革命により中華民国を建国した孫文の陵墓・中山陵

築芸術による新景観」を目指す牛首山は、釈迦牟尼仏頂骨舎利の奉安式が行われた2015年10月、南京牛首山文化観光区として新たな歴史のページが開かれました。

「3つの架け橋」で交流拡大を

昨年11月に来日した中国国家観光局の李金早局長は、石井啓一国土交通大臣との会談で、「観光交流が中日両国の各分野の中で最も活発であり、両国国民に直接利益をもたらし、相互理解にも大きな役割を果たしている」と強調しました。石井大臣は「地方と青少年、文化・スポーツの3分野における交流を『3つの架け橋』として、交流拡大プロジェクトに共同で取り組みたい」と提案。李局長も「3つの架け橋」に賛同し、中国国内で代表的な観光スポットに周辺地域を加えた「全域観光」を促進する方針なども示しています。



その完成により北京と上海を鉄道で直結した南京長江大橋

中国国家観光局 駐日本代表処